

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2872700311		
法人名	社会福祉法人楽久園会		
事業所名	グループホーム こぶしの里		
所在地	(〒 677-0113 ) 兵庫県多可郡多可町八千代区俵田 1 1 1 - 6 0 電話 0795-37-0174		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町 2 丁目 2 番14 - 703号		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月25日

【情報提供票より】 [平成20年2月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	9人	(常勤4人) (非常勤5人)	/ 常勤換算5.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	地上2階建て建物の1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,250円	その他の経費(月額)	12,160円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り ( 円 ) ・ (無し)	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日あたり		1,380円		

(4) 利用者の概要 (平成20年2月1日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性0名) (女性9名)		
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.7歳 … (最低79歳) (最高97歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西脇市立西脇病院 公立社総合病院	加西市立加西病院 棚倉歯科医院	中町赤十字病院
---------	---------------------	--------------------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「西脇市」駅の北西、車で15分程に在る。運営主体の「楽久園会」は、同じ敷地内に、介護老人福祉施設・軽費老人ホーム・小規模多機能ホーム施設のほか、居宅系サービス事業所(通所介護・訪問介護・居宅支援事業所)も併設し、地域における高齢者介護に幅広く貢献している。日常生活に車は欠かせないが、「自然に囲まれた静かな生活環境」は、利用者ケアにおいて交通の利便性にも勝る。この2年間、職員の離職がなく、このことも利用者の心身の安寧に繋がっている。「楽久園会」の事業所全体で多くのレクリエーションが行われ、利用者は、ホーム外のクラブ活動にも自由に参加できる。広々とした共有空間(建物回りの回廊ペランダ)を活用した「歩くりハビリ」の実施も、敷地の広さゆえの工夫である。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①介護計画の定期的見直しの記録漏れについては、これを徹底し、改善がなされた。②カロリー把握については、法人内の管理栄養士がカロリー計算をすることで、これも改善された。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 職員全員が自らの日々の実践内容を振り返りながら、客観的に評価して作り上げた。また、自己評価をすることで、職員の「気づきの機会」となり、ターミナルケアをもっと学びたいというモチベーションアップに繋がった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 地域や市町村の理解もあり、今年度は4回開催した。直近(3月4日)の会議では、地域住民の高齢化に伴い独居や高齢者夫婦世帯が増加している市町の現状報告があった。また、「楽久園会」の実施する配食サービスが、それら住民の安否確認として活かしてゆけるので、民生委員会や市町と連携して、その普及活動の推進についても討議された。家族からは「利用者と子ども達が交流できる機会を増やしてほしい。」との要望があり、これにも取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 家族からの意見や要望、苦情については、ご意見箱の設置のほか、運営推進会議や家族の訪問時を含め、電話等も活用して対応している。また、「楽久園会」としても、苦情解決窓口を設置し、苦情解決委員会がこれに対応するとともに、2~3ヵ月毎に内容をまとめ、第三者委員会に報告をする仕組みになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 敷地内に併設の「地域交流ホール」「喫茶室」「理髪店」は、地域住民も気軽に定額で利用できる。毎月発行の「楽久園会だより」は町内全戸に配布され、地元住民の情報源として活用されている。利用者は、楽久園会と地元地域が主催する楽久園会まつり、夏祭り、運動会などに積極的に参加し、交流を深めている。小学生や中学生によるボランティア(清掃・似顔絵)も受け入れ、子ども達との交流も行なっている。

◎地域とのつきあい

地域に配布している広報誌『楽久園会だより』



◎地域とのつきあい

ボランティアの子供たちが描いてくれた似顔絵



※運営推進会議の出席者の意見も参考に  
小中学生との交流を深めてゆく企画を検討中

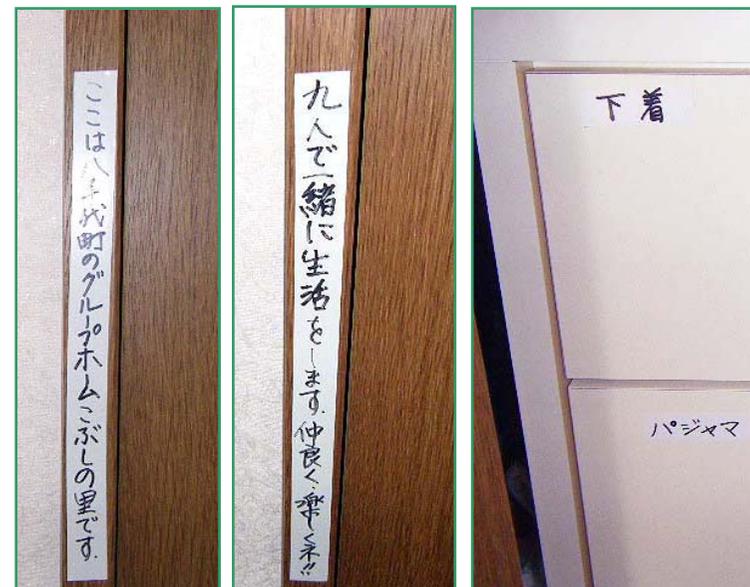
◎居心地のよい共用空間づくり

生活感、季節感のある居間



◎その人らしい生活環境作り

共用スペースや居室での不安の解消



▼喫茶室(地域にも開放されている)



▼場所間違いの防止策と照明の工夫



▲広いベランダ



▲共用スペースの雰囲気づくり

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度が改正される前から、家族、職員が『利用者が地域の中でその人らしく生活する』ことを支え、基本理念として、入居者ひとりひとりがその地域の住民として、地域の方々と職員とともに、『楽しくゆつくり暮らしてゆく…』という思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎朝、利用者の状態を確認し、運営理念を職員に徹底するとともに、運営理念に沿って行動するよう指示している。日々のサービスの提供場面においても理念の共有を行ない、利用者のリズムに合わせてゆつくりとケアの方法を組み立て実践している。運営理念は、外訪者の目にもとまるように明文化し、ホーム入口に掲示している。		
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方とは買い物時にも挨拶を交わし、地域の一員として暮らしている。地元の小学生や中学生のボランティアも受入れている。旧八千代町全戸には広報誌『楽久園会だより』を配布している。楽久園会まつり、夏祭り、運動会等に地域の人と一緒に参加することで、交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全員で取り組んだ。自らが提供するサービスを見直すことで、サービスの資質向上や職員のモチベーションアップに繋げている。第三者評価は、客観性を持った視点として捉え、運営者や職員が気付かなかった点の改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現況報告の他、地域との意見交換、自己評価及び第三者評価についての報告のほか、出席者からの要望を聴取し、サービスの向上に繋げている。会議の中で「利用者地域の子供たちとの交流をもっとすすめてほしい。」との意見がでており、現在、企画を検討している。	○	小学生・中学生が訪問時に描いてくれた利用者の似顔絵には、利用者の生き活きとした表情が描かれており、ここからも、利用者小学生・中学生が交流を楽しんでいる様子がうかがえる。今後も、地域のこどもたちと、より交流を深める企画を期待している。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	加西市が主催する事業者連絡協議会に参加している。公正役場とは、遺言書の作成で連携をしている。消防団や救急の訓練にホームを活用してもらっている。現在は市町担当者とは、運営推進会議以外の連携は行っていない。	○	市町担当者を含めた地元同業種事業所連絡会をホームで開催をするなど、地域密着サービスとしてのホームの考え方や実態を共有し、協働関係を築いてゆくことを望む。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調変化時等は随時連絡をとっている。日常の様子や健康状態、職員の異動については面会の際に報告をしている。金銭管理の報告は2カ月に1度。日々の利用者の暮らしぶりを定期的に家族に伝えることができていないため、毎月家族に手紙を書くことを検討している。	○	定期的に家族に対して「お便り」を届けることで、日々の利用者の暮らしぶりや健康状態を家族が把握することが出来る。家族に安心をしてもらうことで、よりいっそうの信頼関係を築いていってほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情については、面会の際に聴取しており、ご意見箱を設け直接言いにくいことは、ご意見カードを投函してもらえようにしている。運営推進会議において家族の代表者から意見を聞き、運営に反映させている。	○	ご意見の投函は少ないようであるが、ご意見カード(記入票)を「家族へのお便り」に同封したり… 意見を書きやすいようにカードを工夫したり… 家族会を開催して一緒に食事を楽しみながら、率直な意見交換ができる場の設定する…など、検討してみてもどうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者が日頃から職員の悩みを聴いている。併設のケアハウスの主任相談員にも職員が相談できるようにしている。職員の異動や離職はできるだけ最小限にするように努力をしている。認知症ケアに適した職員を配置するように努めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育成するために、段階に応じた外部研修を受ける機会を確保している。月に1回は職員全員を内部研修に参加させている。管理者や計画作成担当者は現場での実践指導も怠らなく実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する事業者連絡協議会に職員が参加をしている。同業者との交流を持つことにより、情報交換やサービスの質の向上を目指している。同業者の新人研修をホームが担当し新人育成にも協力している。事業所間での空室状況の連絡を取り合う等の連携もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を利用するまでに自宅に訪問し、本人から困っていることや不安なことを傾聴する機会をつくり、信頼関係を築く努力をしている。本人がホームの雰囲気除々に馴染めるように数時間とか1日間のお試し期間を設けるなど、家族と相談・協力して対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念「一緒に楽しくゆっくり」とは、職員も利用者とともに一緒に楽しくゆっくりと過ごすことで、時には利用者から教えてもらったり、いたわりや励ましてもらったりしている。このような双方向の関係が職員のモチベーションアップになり、離職率の低さ(この2年、離職者がいない)ことにもつながっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めるとともに、認知症状が進んで本人の意向を把握するのが困難な利用者については、家族に聴いたり、職員間で本人の意向を推量したりしている。「個人の尊厳の尊重」というケアの視点が職員間で共有されている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの一日の生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過について、家族や介護支援相談員から情報収集を行い、本人、家族、職員間で意見を出し合あって利用者が望む、または納得できる介護計画の作成に努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者、家族と話し合い、現状に適した介護計画を作成している。利用者の日々の様子やケア記録に記録をするとともに、情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護、短期利用共同生活介護も運営しており、その時々々の家族の要望に応じた支援を実施している。医療連携体制は整備がされている。訪問理美容やリラクゼーションマッサージも行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関はあるが、これまでのかかりつけ医との関係も大切にしており、利用者や家族が納得できる医療が受けられるよう支援している。少し体調を崩されたときは、こまめに近隣の医療機関に受診の支援を行い、早めの対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	症状の重度化や終末期のあり方については、事前に利用者や家族等、かかりつけ医と話し合いをしている。実際に重度化した場合は、利用者の意思に沿えるように家族等とかかりつけ医とで頻りに話し合いを持ち、方針を決定している。	○	終末期のあり方については、契約時あるいはホームの生活に馴染んだ頃に看取りの場や延命治療の有無について利用者と家族等と話し合いの場を持ち、方針を共有して文書化しておくことが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者の意思及び個人の尊厳の尊重」をケアの基本姿勢としており、誇りやプライバシーを損ねるような態度や言葉使いをしないよう徹底している。個人情報の守秘義務についても気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本の生活の決まりはあるが、利用者に無理強いするのではなく、あくまでも一人ひとりのペースにあわせて、過ごしてもらっている。行事やレクレーションへの参加も個人の意向を尊重している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	BGMを流し、大きなテーブルを皆で囲み、利用者同士や職員が楽しく会話をしながら食事をしている。食事内容は、同じメニューでも好みに応じてアレンジしている。体調や嚥下状態に応じて刻み食や、かゆも提供している。利用者の能力に応じて職員が食事介助や見守りを行っている。配膳や片付けも利用者と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日と時間帯は決まっており、一人の利用者は週3回の入浴となっている。利用者の意思は入浴の時間帯の中で、入浴時間を変更する程度となっている。	○	好みの回数や時間など利用者の希望に沿った入浴ができるような業務体制の見直しを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は個々に役割を持ち、職員と一緒に家事(洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、食器洗い等)を協働している。買い物、読書、散歩等や各種クラブ活動(書道、社交ダンス、陶芸、絵手紙など)にも参加して楽しみのある日常生活が送れるように支援している。併設施設の喫茶コーナーにはいつでも出向くことができ、地域の方との交流機会にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前は急な坂道になっているので、ホーム周辺の散歩は難しいが、ホームを取り囲むベランダが回廊式となっており、自由に出入りできる。このベランダは、プランターでの花の栽培や、リハビリとして毎朝の「歩け歩け運動」などに活用されている。広い中庭は日光浴も楽しめるようにベンチが設置され、皆の憩いの場所となっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが急な坂道に面した土地に建てており、安全面の上で職員の目が行き届かない時は玄関を施錠している。	○	利用者の安全面に気を配り、職員が利用者の動向に常に注意を払って仕事をする意識を、より浸透させてもらいたい。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害時の利用者の避難訓練は、年数回行っており、そのうち1回は地元の消防団と合同の練習を行っている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスのとれた献立をたてている。食事摂取量、水分の摂取量、排泄の状態、バイタルチェックなど各個人ごとに記録している。食事摂取量や水分摂取量については、十分注意しており、食事摂取量が少ない利用者については、栄養補助食品(MA7等)を摂取してもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルに季節ごとの花を飾り、リビングには利用者の作品や季節を感じる装飾品がある。直射日光が当たる場所はカーテン等で調節している。テレビやCDの音量は気をつけている。エアコンや加湿器などで温度湿度の調整を行ない、居心地の良い空調にも心がけている。リビングには床の間付の和室があり掘り炬燵を設けている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、自宅から使い慣れたベッドや家具などを持ち込めるスペースは十分にある。利用者が自分の部屋として居心地よく落ち着いて過ごせるように家族にも協力(馴染みの品物や家族の写真等を持ち込む)して頂いている。</p>		

※  は、重点項目。